

# ヨーロッパ掃き寄せ

有賀島左衛門

十一月八日に羽田に帰りました。五日にローマを立つ時は俄然の強くなりそうな気分がたちこめて、ローマでもものものしい有様でした。ローマの学生達は *La Budapest* の *Sher* という標旗をかかげて、ソ連及び英仏に対する反対デモを連日やっています。私は十月の月末にアテネをへてカイロにはいる計画をしていましたが、ついにこの計画はおちやんになったのは実に残念でした。

学生ばかりでなくイタリアの人達は競争に強烈に反対しているのです。今のイタリアは戦後の傷もほゞ癒えて、輝やかしい復興の途上にあるのですから、戦争はいやだという気持ちの強いのもよく理解できます。イタリアは乞食が多いとか、人気が悪いとか、にせ札を

つかまされるということとを日本から出る時に聞いていましたが、兎ると聞くとは大抵がいつかという感じがしました。私のような短い期間の旅行者には現在のイタリアの政治のことなどわかりませんが、しかしイタリア政府が今行っている農地改革は日本のそれとは段ちがいの内容を持つてゐるらしいことを聞いただけでも、現在のイタリアに乞食なども余り見られないこと、関係がありそうに思いました。

イタリアで行われている農地改革は全国一斉に行つてゐるのでなく、地区を部分的にきめて、地主から政府で土地を買い上げ、政府の力で土地改良を行いつつ、農業協同組合を中心に各戸経営の充実を計り、農民から生産物の供出をさせることにより長年期の年賦で農民に土地を売却す仕組みのようです。イタリアでは全国に亘つてまだ大地主も存在してはいますが、それらの大地主所有をこの方法で次第に自営農民の手に引渡そうとする遠大な計画が現在の社会民主的・中間政党政三派の連立内閣によつて推進されてゐるのです。

その一地区として設定されたエンテ。マレンマはポローマからフィレンツェに至る西海岸に面したかなり広い地区ですが、ここではすでに農民に売り渡されつゝある土地も相当あると聞きました。この地区は一戸当りの割当耕地が最も多いのですが、ほゞ一四エーカー一戸余になつてゐるのは驚くべきことです。

シテリア地区は一寸少く四エーカー余と統計に見られましたが、これらは日本の農地改革がただ所有權の移転だけの事務をしていただけにすぎないのに比較すると、前述のように土

地改良や経営に対して政府がもつと親切な、立入つた尽力をして、農協中心の農村建設を行つてゐることに注目せざるを得ないので、日本の農地改革が自主的のものでなかつたからといへばそれまでですが、農地改革が福祉社会の建設にとつて当然の条件であることを考えるなら、イタリアの農地改革にはいろいろの意味で教えられる所が多いと思つてゐます。

私は農村や農家をつぶさに見る機会もなかつたので、イタリアの農業のこともよくわからないのです。しかし私の見たかぎりのことといつても日本の農業が技術的にイタリアに劣つてゐるとはとも思われなかつた。ロンバルディアの米作は季節はずれで見られませんが、石ころの多い粗野な農地にバラ播きの状態を見れば、日本の百姓は笑ひ出すでしょう。ロンバルディアからトスカナに米る途中で、畑の境に雑草を植えて、それに補助をからませた恰好なんか、推測に見える作り方です。それに畑の間に沢山の草草があつて、羊や牛が草を食べてゐるのを見たら、日本の百姓はもつたないと思ふにちがひないのです。これは休耕地にもなるのだから、日本のように多肥栽培はやらないようです。大動力機械が田中畑の中で活動してゐるわけでもないらしいし、畜力耕耘も多いといふことだし、それは私の眼でも眺めたことでした。

私は農業技術の優劣をさういう現象の上できめて見た所でナンセンスだといふことをスウェーデンを訪れた時から痛切に感ずるようになりました。私はふつと旅行者ですから、北

歐諸國を見て歩いてゐる時はさほどにも感じなかつたというより、その農村でも農家でも、日本の農村や農家よりもすばらしく幸福に見えたので、同列に比較するといふ氣持がほとんど湧いて来ませんでした。ただ國によつて農業の内容に相当ちがひがあるのに気づいた位のものでした。もつともこの國にした所が私の見た部分はほんのわずかであるし、眼で見える表面的な事柄ばかりですから、本當のことがわかつてゐるわけではないのですが、その程度で比較して見ただけでも、例えばイギリスでは、ロンドンの近郊においても牧場用の草地は沢山に見られても、野菜畑はあまり見られませんでした。ロンドンの八百中には外國の野菜や果物がいろいろならんでゐるのを見ましたが、さもありませんと思われしました。オランダの西部の海岸地方は有名なチューリップ栽培地ですが、落花生などの畑もあり、景観はイギリスとはずいぶんちがつていました。じやが芋はドイツやイギリスにも輸出されると聞きました。また米は「苦い米」で知られたイタリアのロンバルチアや南スペインの特産であり、柑橘類も南歐のもですが、米も此頃では北歐で沢山消費されてゐるので、北歐に送りこまれてゐるのです。其他どの種の事柄をあげればきりはありませんし、私より広くヨーロッパを歩いてゐる人はもつとよく知つてゐるはずですが、私はさういふ事柄のまとまつた知識もなくて、各國を歩きながら、とりとめもなく見たたり、聞いたたりしてゐる間に、さういふ事柄が私の頭の中にだんだんだたまつて来ました。そして漸々に

よつて農産物に特産的なものがあつて、それがヨーロッパ諸國の間に相互に深く交流し、有無相通じてゐることを知りました。日本でもビルマやタイから米を買つてゐるし、台湾から砂糖が来たりしてゐますから、農産物や農産加工品の輸入や交流が全然ないことはありませんが、ヨーロッパではもつと多種類の農産物資が諸國間にもつと深く交流してゐるように見えます。さういふことを農産物ばかりで見ても仕方はないし、またこれをヨーロッパ諸國の間ばかりで考へて見ても意味は少いのですが、ともかく農産物のあるものの上には私には意外でありました。日本では野菜まで朝鮮や中國から買つては考へられなれないと思ひます。さういふことの結果各國の農産物の上に適地適作の傾向が認められることになつて来たかと思ふのです。適地適作といつても自然的な条件ばかりで考へてはならないのですが、ともかくさういふことから、各國において作物の種類も比較的少くてすむことにもなるし、それは農地の比較的濶大であるといふ条件と相まつてヨーロッパの農業の条件をよくしてゐるようになつてゐるのです。スペインは氣候風土の条件がひどく悪いので、大半は避暑地のような環境を呈してゐる、そこには芋の子をちらしたように羊が群れてゐるのですが、こんな地方ですら百姓の生活には何かゆとりがありさうに見えるのです。北歐にくらべて生活低度が高いことは見ればわかるのですが、スペイン流のおそろしく悠長な、時間を無視したような生活をして、音楽や踊

などの楽しみも相當大さゆゑのを見ると、そんなセツセとゆかなくとも良い理由がその辺の所にありさうな氣がしてならないのです。イタリアに來ても氣候的條件はひどく乾燥してゐて、日本より悪いように思われれます。台風はないとのことですが、ともかく畑のこしらえから栽培の方法も、さう見ても荒っぽいものです。大きな畑に石がごろごろしてゐて、整地も十分ではないことや、麥のばらまきなどをみると日本の百姓が驚かすだらうと思ひました。これですましてゐられる被等の方がどの位幸福かわからないと思ひます。パリで、ルイブル所蔵の毛糸の一つの筒を見ました。その筒は百姓女でない二人の婦人が手供をつれて麥畑の畔道を下りて来る時でした。その麥畑の中はひなげしの赤い花が変にまじつて沢山咲いてゐるのです。私はこれと同じ情景をロンドンからストラットフォード・オン・エーヴォンへ行くと遠ざかると沢山見ました。印象派の創始者モネは麥と同じ見方ではありませんでした。私は彼の夕ツツの新しい工夫が當時いかにすばらしいものであつたか、また今日でもそれはいまだいきてゐることに心を打たれましたが、ヨーロッパの麦作りは日本の百姓のようには益的ではなくとも良い十分の理由があるのだといふことを思はないわけには行きませんでした。

ヨーロッパの農業は各國によつて今のべたようなヴァリエテイを見ることはできませんが、また備面でも事に結びついて存在する共通性の著しいのにも驚かされました。それは畑をめぐつて植がつてゐる草地、牧場

と妻の裁断とであります。こんなことを私が  
解かなくてもわかりきつたことではしようが、  
私は今迄聞いていただけですが、はじめて見て  
驚いたのですから、驚いたことを書きたいと  
思つたまでです。畑と同じ位か、園によつて  
はそれよりも広い草地を割りあけて、酪農を  
やつて行かれるということなのです。日本でも  
酪農の必要が相当強く呼ばれて来たと思つて  
いるのですが、少くとも一般の小農のやつている  
酪農——酪農といえるかどうかとも疑問ですが  
——なんか困難な状態におかれてあります。も  
つと正確にいつたら多くの百姓はそこまで手  
が出ないのだと思つて、そういう地盤がま  
だできていないといつてよいでしょうか。牛  
馬や羊を飼うのには飼料が必要なのですが、  
高い飼料を買うのではやりきれないと思つて  
います。草地を持つために田畑をつぶすほど、田  
畑の余裕を持たないようです。幅員大の耕地  
の上で多種類の作物を煩雑なまでに輪作しな  
ければならないような条件では、少数作物に  
集中することはほとんどできないようです。  
だから木阴から夜まで刻苦勉勵の労働をしな  
ければならず、その技術も、多肥の上に、莖  
をため、葉を糞でさする名人芸のようなもの  
にさえならなければならぬということにな  
るかと思われれます。それでも生活は苦しいと  
いわれています。そして産村は生活のたのし  
みも少いといわれています。農地改革以後生  
活のよくなつた人も少くはありませんが、田  
畑を草地に換える余裕のないことは明かであ  
ります。一部の人は山林の解放や農家の集  
团的な経営に持つてゆくことに根本的な解決

策があることを主張していますが、一国内で  
解決し得る限度はもつと良い条件を持つ国で  
す。これらも有効な解決策となり得るかも知  
れませんが、私は国際的な深い連帯関係を  
地盤としなくては中途半端なものに終りそう  
な気がしてならないのです。そういう連帯関  
係は日本では今迄極めて貧弱であつたと思つ  
ます。

私はスペインを見てから、ヨーロッパの農  
業と日本の農業とのちがいを考えて見たいと  
いう気持ちになりました。また考えることがで  
きそうに思いました。もちろんこれからいろ  
いろの資料を集めるのでなければ解きあは  
ないと思つていますが、そのちがいはそれが立  
つていゝ地盤のちがいであるまいかと思つよ  
うになりました。その一つの表れは前にふれ  
た農産物のヨーロッパ諸国間における交流の  
中に見出される連帯関係の組織であると思  
いますが、これは共栄體というには余りに諸國  
家の利害が一致していません。しかしそ  
れでもかなり深い連帯関係を持つていゝこと  
を注意してよいようです。それと共にこれは  
たゞ農業の關係だと見ることも正しいとは思  
われません。やはりヨーロッパの全体の經濟  
構造、文化構造と密接に結びついていると見  
るべきだと思われれます。もう一つはヨーロ  
ッパとヨーロッパの外部との關係をその地盤と  
して見なければならぬと思つてます。  
これらのことは私がおそまきに扱つたとい  
うにすぎないので、改まつて申上げるほど  
のことではないかも知れませんが、おそまきに私

の思ふことはヨーロッパが近世以来獲得した  
政治的、經濟的地盤は今日相当大きく改訂さ  
れつつあるとしても、そのすべては簡単にく  
ずれるものとは思われぬことです。そうい  
う地盤に支えられて広い草地が成立したこと  
を考へてもよいと思つてます。デンマーカの繁  
栄についてももちろんそうであると思つて  
います。ビネー山脈以南はヨーロッパでないと  
通例いわれているスペインもそういう地盤の  
上に「焼野原」を支えて、その中で彼方の生  
活を創り出したことを考へられぬだろうか  
と思ふの實しい一旅行者は自問自答してある  
のです。(一九五六年二月七日記)